

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-759

(43) 公開日 平成9年(1997)1月7日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
D 0 5 B 1/12		7637-3B	D 0 5 B 1/12	Z

審査請求 未請求 請求項の数 7 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平7-184611

(22) 出願日 平成7年(1995)6月16日

(71) 出願人 595104884

株式会社杉本縫製

愛知県江南市古知野町杉山165番地

(72) 発明者 杉本 明彦

愛知県江南市山尻町大桑81番地

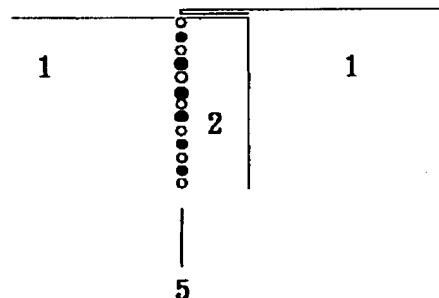
(54) 【発明の名称】 本縫いミシン二度縫いをする衣服の縫製方法

(57) 【要約】

衣服の縫製仕様(方法)に関するものである

【目的】衣服の、デザイン面、素材面、色柄面においては、常に開発、研究がなされ、強調されているが、その縫製仕様については旧態依然としている。そこで、本発明は縫製仕様の面で、品質の向上を計ることを目的とするものである。

【構成】本縫いミシンで一度地縫いをした「真にその地縫い線の上」をもう一度地縫いすることである。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】本縫いミシン二度縫いの縫製仕様で縫製された衣服

【請求項2】脇縫いが、請求項1の衣服

【請求項3】背中心縫いが、請求項1の衣服

【請求項4】袖下縫いが、請求項1の衣服

【請求項5】袖山縫いが、請求項1の衣服

【請求項6】股下縫いが、請求項1の衣服

【請求項7】袖つけ縫いが、請求項1の衣服

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、衣服の縫製仕様に関するものである

【0002】

【従来の技術】従来、衣服の縫製に関しては、上記請求項に列記した箇所については、本縫いミシンの一度縫い、又は、カン縫いミシン、あるいはインターロックミシンで縫製されるのが通例である

【0003】

【発明が解決しようとする課題】消費者ニーズに対応して、衣服の、デザイン面、素材面、色柄面については、常に新しいものが開発され、強調されるが、縫製仕様については、比較的旧態依然としているのが現状である。いわゆる、現状の縫製仕様で、①本縫いミシン一度縫いは強度的にやや弱く、②カン縫いミシン、インターロックミシン縫いは、一ヶ所糸が切れれば、そこからどんどんはつれていってしまうという不備がある。そこで本発明は縫製仕様の面で、衣服の高品質化しいては高級化、並びに強度の向上をはかり、この方面での消費者ニーズに対応しようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】現状の縫製仕様によれば、上記請求項にあげた箇所は

【0002】で述べたとおりである。本発明は、本縫いミシンで一度地縫いをした、真にその地縫い線の上をもう一度本縫いミシンで地縫いをするものである。

【0005】

【作用】本発明による縫製仕様によって縫製された衣服は、確実に縫製箇所において強度が増すことは明白で、*

*なおかつ、品質面で「目」のこえている日本人消費者がもとめる「縫製上の高級感」、しいていうならば、「日本の品質」に対応できる作用があると考えられる。

【0006】

【実施例】

【0004】でいうところの「真にその地縫い線の上をもう一度地縫いをする」ということは、ミシンの「針おち」の箇所をまで一致させるというものではない。従って、針目としても必然的にこまくなるわけである。ただ単に針目をこまかくすることは、ミシンの機能において充分に可能であるが、それだけでは、縫製箇所で生地「ヒリつき」がおきやすい。又、「バックリング」という問題が当業界でよく問題になります。この対処方法として、ミシンの糸調子をゆるくして地縫いをするという手段がとられている。こうすると糸調子がぬるい為に、地縫いの箇所を少し引っ張ると、向こう側がすけて見えてしまうという不都合がある。本発明によれば、これらの問題も大方解決することが可能である。一方で強度の点のみを考えるならば、一度地縫いをしたその数ミリ離れた箇所をもう一度縫っても、同様の効果はあるかもしれないが、この場合には、縫い代を割れないので、「縫製上の高級感」は得られない。本発明の具体的な実施にあたっては、縫製業にたずさわっているものにとっては、特に高度な技術を要するものでは決してない。即ち比較的容易に実施することが可能である。

【0007】

【発明の効果】上述の通り、PL（製造物責任）法の施行をもふまえ、消費者に対する生産者の立場からしても、本発明は、アパレル業界における、縫製上の質的向上を計る上で効果は絶大であると考ええる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のイメージ図である（わかりやすくするために、縫い代を片倒しにして図にしてある）

【符号の説明】

- 1 生地裏側
- 2 生地縫い代
- 3 一度目の地縫いの針落ち位置（図の○印で表示）
- 4 二度目の地縫いの針落ち位置（図の●印で表示）
- 5 地縫い線

【図1】

